

箱の中は がいっぱい！

高学年 / 5 時間

鑑賞 + 表現【つくりたいものをつくる】

題材の目標

ジョゼフ・コーネルの作品を鑑賞し、表現の意図やよさに関心をもつ。
 いろいろな材料を集めたり自分のつくりたいものをつくったりして、箱の中に自分の世界をつくる。

著作権の事情により、作品
 写真は掲載できません
 （美術館でご覧ください）

「無題（古い写真とオブジェのある箱）」

ジョゼフ・コーネル

準備物 【教師】鑑賞作品（写真）、箱、塩化ビニール板、紙粘土、ニスなど
 【児童】箱（木、紙、缶など）、箱の中に入れる物やその材料、絵の具、はさみ、ボンドなど

学習の展開例（1 / 5 時間）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>ジョゼフ・コーネルの作品を見て、見つけたことや感じたことを話し合う。</p> <p>この作品でコーネルが表現したかったことは何か考える。 箱の中に「自分の世界」をつくる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱の中には何を入れようかな。 ・色は何色にしようかな。 ・どんなふう飾ろうかな。 <p>まとめと次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習をふり返る（カードなど） ・材料の準備（メモ書きする） 	<p>作品から受けた印象や見つけたことを発表させ、写真やオブジェのそれぞれのもつ意味を想像させる。</p> <p>色々な材料（写真、金色のダンスシューズ、コルク、ゴムボールなど）を組み合わせて作品を構成していることに気づかせる。</p> <p>コーネルの心情を想像することで、作品にこめられた意図を考えさせる。</p> <p>コーネルの作品を参考にして、過去・現在・未来の自分を見つめ、自分らしさを表現するために必要なものを考えさせる。</p> <p>考えがまとまりにくい児童は、声かけをして児童の思いを引き出していく。</p> <p>材料集めから表現活動が始まっていることを知らせ、自分で材料をさがすことの重要性をつかませる。</p>	<p>表現する人の思いや意図、表現のよさなどを感じ取るうとする。</p>

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、一人一人の個性が発揮されるようになり、造形活動においても自分らしい表現をすることに関心をもつようになります。

また、作品のよさや美しさなどを味わうと共に作品の意図や背景などにも興味をもつようになります。

< 鑑賞の視点 >

コーネル自身が「詩的な劇場」と呼んだ箱の作品は、箱の中の色々な材料の組み合わせにより新しい世界がつけられ、見る者の想像力を刺激します。児童の生活経験と重

ね合わせながら鑑賞させましょう。

< 指導の工夫及び配慮 >

学習計画は5時間の予定ですが、コーネルの作品鑑賞に重点をおき時間を多くとることもできます。授業のポイントをどこにおくのかを明確にして指導計画を工夫しましょう。

表現活動を深めるためには、学習展開例の計画を立てると材料集めは大切な活動です。支援が必要な児童には、発想を助ける声かけや児童が準備できないところを補う教師の配慮が必要です。

< 教具（教材）づくり >

箱の中に入れる適当な大きさのものが無い時には、紙粘土などで作ったものを飾るとよいでしょう。

「無題（古い写真とオブジェのある箱）」1932年 ミクスト・メディア

日常的に使われていたような木箱の中に、様々なものが整頓され入っています。コーネルは写真の収集家でもあり、中央の古い写真は、19世紀の女道化芝居師ポーリン・クックの宣伝用の肖像写真であるといわれています。写真の周りには、金色のダンスシューズ、コルク、ゴムボール、ピックアップ、スティックゲームで使う細い木、温度計、蛇の目傘、紫や金色の玉、フルーツなどが置かれています。それぞれのオブジェには、コーネルの子ども頃の思い出が記憶され、そのオブジェがこの箱の中で一つになりコーネルの詩的でノスタルジックな世界をつくっているでしょう。

ジョゼフ・コーネル

ジョゼフ・コーネル（1903年～1972年）は、20世紀アメリカの生んだ最も魅惑的で謎にみちたアーティストで「箱の作家」と呼ばれています。ニューヨーク州ナイアックに生まれ、恵まれた少年時代を送りましたが、14歳の時に父親を亡くし、生活は一転して苦しいものとなりました。しかし、ニューヨークで美術、文学、音楽、演劇など様々な芸術に接しました。1931年、シュルレアリストであるエルンストのコラージュ作品を見て深い感銘を受け、自らも新聞や雑誌を切り抜いたコラージュの作品を制作し、1940年代から箱の中に様々なオブジェを配した作品を制作しました。コーネルは日頃から様々なものを収集し作品の材料として活用していました。自分のイメージに合う様々なものを組み合わせ、異質なものを箱の中に閉じ込める手法で自分の世界を表現しました。

【シュルレアリスム】超現実主義。フロイトの精神分析を援用し、夢や無意識の世界を探求し、目に見えるものではなく無意識、狂気、幻覚などに焦点を当てて展開された前衛的な芸術運動。

【ミクスト・メディア】色々な材料を組み合わせる手法